

教科	芸術	科目	音楽 I	講座	1 年	種別	必修
単位数	2	教科書	MOUSA 1 (教育芸術社)				
副教材	なし						
授業形態	講義、表現活動 (歌唱、器楽、創作)、鑑賞活動						
科目の 目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。						
身に付けて ほしい学力	1 様々な音楽に興味を持ち、音や音楽に対する興味・関心を高める。 2 自己のイメージを表現するための技能を身に付ける。						
学習計画	単元			学習のあらまし			
	【1 学期】 伯方分校歌 楽譜の仕組み ボディパーカッション 斉唱 創作 【2 学期】 民謡 合唱 音楽理論 篠笛 【3 学期】 ギター 鑑賞 斉唱			<ul style="list-style-type: none"> 分校歌を習得する。 中学校での内容を展開しながら、更に音楽の基礎を学習する。また、歌詞の内容や文化的背景に関心を持ち、イメージを持って歌唱する。 合唱やアンサンブルを通して、楽曲の特質や雰囲気などを感じ取り、音楽表現を工夫する。 器楽や歌唱、鑑賞などの活動を通して、音楽に対する総合的な理解を深める。 1 年間の学習のまとめをする。 			
評価の 観点・ 評価方法	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力			
	音楽や音楽文化に興味・関心を持ち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとしている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか音楽をつくるか表現意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。			
上記の観点を踏まえ、①定期考査 ②実技試験 ③提出物 ④授業態度 を総合的に判断して評価する。							
学習の アドバイス	1 休まず授業に出席し、様々な楽器演奏や歌唱などを体験する。 2 演奏では自分なりの表現を大切に、実技試験に臨む。 3 定期考査では、筆記試験も実施する。プリントはファイルに綴じて学期末に提出するので、日頃からファイルの整理をしっかりと行う。						
その他	音楽大学受験のための学習とは違い、音楽を幅広く学習する。						

教科	芸術	科目	音楽Ⅱ		講座	2年B講座	種別	必修
単位数	2	教科書	MOUSA 2 (教育芸術社)					
副教材	なし							
授業形態	講義、表現活動(歌唱、器楽、創作)、鑑賞活動							
科目の目標	音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質や能力を育成する。							
身に付けてほしい学力	1 音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。 2 音楽を評価しながら、よさや美しさを深く味わって聴くことができるようにする。							
学習計画	単元				学習のあらまし			
	【1学期】 斉唱 ソルフェージュ ピアノ 【2学期】 箏 創作(メロディー作り) 鑑賞(西洋の音楽) 斉唱 【3学期】 ギターアンサンブル 斉唱 鑑賞(ミュージカル)				・音楽Ⅰでの内容を展開しながら、更に音楽の基礎を学習する。 ・日本の音楽と諸外国の音楽について理解し、イメージを持って鑑賞、演奏をする。 ・鑑賞、創作活動を通して、楽曲の特質や雰囲気などを感じ取り、音楽表現を工夫する。 ・器楽や歌唱、鑑賞などの活動を通して、音楽に対する総合的な理解をより一層深める。 ・1年間の学習のまとめをする。			
評価の観点・評価方法	音楽への関心・意欲・態度		音楽表現の創意工夫		音楽表現の技能		鑑賞の能力	
	音楽や音楽文化についての理解を深め、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとしている。		音楽を形づくっている要素とそれらの働きを理解し、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか音楽をつくるかについて表現意図をもっている。		個性豊かな音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、創造的に表している。		音楽を形づくっている要素とそれらの働きを理解しながら、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。	
	上記の観点を踏まえ、①定期考査 ②実技試験 ③提出物 ④授業態度 を総合的に判断して評価する。							
学習のアドバイス	1 休まず授業に出席し、様々な楽器演奏や歌唱などに主体的に取り組む。 2 演奏では自分なりの表現を大切に、実技試験に臨む。 3 定期考査では、筆記試験も実施する。プリントはファイルに綴じて学期末に提出するので、日頃からファイルの整理をしっかりと行う。							
その他	音楽大学受験のための学習とは違い、音楽を幅広く学習する。							

教科	芸術	科目	音楽Ⅱ	講座	2年C講座	種別	必修
単位数	2	教科書	MOUSA 2 (教育芸術社)				
副教材	なし						
授業形態	講義、表現活動(歌唱、器楽、創作)、鑑賞活動						
科目の目標	音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成する。						
身に付けてほしい学力	1 音楽のよさや美しさを理解しながら、様々な音楽活動を工夫することができるようにする。 2 多様な音楽に対する視野や理解を深め、主体的に鑑賞することができるようにする。						
学習計画	単元			学習のあらまし			
	【1学期】 斉唱 ソルフェージュ 創作(メロディー作り) 【2学期】 民謡 箏 楽器について知ろう 鑑賞(西洋の音楽) 【3学期】 ドラム 斉唱 鑑賞(ミュージカル)			<ul style="list-style-type: none"> ・音楽Ⅰでの内容を展開しながら、更に音楽の基礎を学習する。 ・創作活動を通して、楽曲の特質や雰囲気などを感じ取り、音楽表現を工夫する。 ・日本の音楽について理解し、イメージを持って歌唱、演奏をする。 ・器楽や歌唱、鑑賞などの活動を通して、音楽に対する総合的な理解をより一層深める。 ・1年間の学習のまとめをする。 			
評価の観点・評価方法	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力			
	音楽や音楽文化について理解を深め、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとしている。	音楽を形づくっている要素とそれらの働きを理解し、歌唱、器楽。創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するかについて表現意図をもっている。	個性豊かな音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素とそれらの働きを理解しながら、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。			
	上記の観点を踏まえ、①定期考査 ②実技試験 ③提出物 ④授業態度 を総合的に判断して評価する。						
学習のアドバイス	1 休まず授業に出席し、様々な楽器演奏や歌唱などに主体的に取り組む。 2 演奏では自分なりの表現を大切に、実技試験に臨む。 3 定期考査では、筆記試験も実施する。プリントはファイルに綴じて学期末に提出するので、日頃からファイルの整理をしっかりと行う。						
その他	音楽大学受験のための学習とは違い、音楽を幅広く学習する。						

教科	芸術	科目	音楽Ⅲ	講座	3年CD講座	種別	必修
単位数	2	教科書	Joy of Music (教育芸術社)				
副教材	なし						
授業形態	講義、表現活動(歌唱、器楽、創作)、鑑賞活動						
科目の目標	音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の多様な音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成する。						
身に付けてほしい学力	1 生涯にわたり音楽を愛好する心情を育て、個性豊かな音楽の能力を高める。 2 自己のイメージを表現するための技能を高め、様々な音楽活動を工夫することができるようにする。						
学習計画	単元			学習のあらまし			
	【1学期】 ソルフェージュ 鑑賞(ミュージカル) ギターアンサンブル 【2学期】 斉唱 鑑賞(西洋の音楽) 器楽アンサンブル 【3学期】 創作(体を使って) 斉唱			・音楽的な要素とそれ以外の要素がどのようにかかわり合って、総合的な芸術表現が形づくられているかを理解する。 ・歌唱、器楽などの活動を通して、楽曲の特徴を理解しふさわしい表現方法で歌唱、演奏する。 ・音楽を形づくっている要素などを理解して、表現意図をもって個性豊かに音楽を作る。 ・3年間の学習のまとめをする。			
評価の観点・評価方法	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力			
	音楽や音楽文化についての理解を一層深め、感性を磨き、個性豊かな歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとしている。	楽曲の表現内容を総合的に理解し、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか、音楽をつくるかについて表現意図をもっている。	個性豊かな音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、個性的、創造的に表している。	音楽の構造上の特徴とその音楽の美しさや価値とのかかわりを総合的に理解して、創造的に味わっている。			
上記の観点を踏まえ、①定期考査 ②実技試験 ③提出物 ④授業態度 を総合的に判断して評価する。							
学習のアドバイス	1 休まず授業に出席し、様々な楽器演奏や歌唱などに主体的に取り組む。 2 演奏では自分なりの表現を大切に、実技試験に臨む。 3 定期考査では、筆記試験も実施する。プリントはファイルに綴じて学期末に提出するので、日頃からファイルの整理をしっかりと行う。						
その他	音楽大学受験のための学習とは違い、音楽を幅広く学習する。						